

## 1.活動スタッフ

活動スタッフ参加者：6名（内訳）			
男性	4名	アソシエイト層（～34歳）	0名
女性	2名	リーダー層(35～59歳)	6名
		シニア層(60歳～)	0名

## 2.活動場所・スケジュール・現地参加者数

12/8（土）	イベント	場所	現地参加者人数
13:00-17:00	パソコン・ネット学習会(仮称)指導	ふるさとセンター	13名
12/9（日）			
10:00-12:00	ミニ門松作り支援	居場所ハウス	46名
13:00-15:30	ホームページリニューアルキックオフmtg	長洞元気村	2名



## 3.参加者による活動レポート

【質問1】1日目：PC教室について

・fbのパスワードを忘れてログオンできないとの相談を受け、2つのメールアドレスとパスワードの組み合わせを試したも

ののログオンができず、新規登録を行った。よろず相談ではこのような事案が多くあるため、次回は推奨設定方法を紹介する必要があると思う。

・年賀状用の住所録を誤って削除した。対策：隠しファイル含

め PC 内を検索したが完全に削除されていたため、紙の情報を頼りに住所録を再作成し完了。

・亡くなられたご家族の撮った写真を紹介いただいた。対策：一緒に PC 画面を見せていただき、思い出を聞かせていただいた。途中、感極まり泣いてしまわれたが、黙って拝聴した。

・年賀状作りの支援を行いました。①宛名にご自身の名前が表示されてしまい困っている。よくよく見ると、葉書が往復葉書を選択していたので、年賀状を選択することで問題を解決。②スマホで撮影した写真を PC に移す。③PC に取り込んだ写真を年賀状に取り込み、レイアウト調整。④文字入力と文字サイズ、色、配置等の調整。

・普段馴染みのない「筆まめ」での年賀状作成で、手こずってしまいましたが、最終的には2種類の年賀状を作成し、ご満足頂けたようで良かったです。

・年賀状作成ソフトの操作に関する以下の2つの御質問に対応しました。1. 年賀状裏面のテキスト入力部分とイラスト入力部分のサイズ変更とレイアウト変更方法。2. 年賀状裏面の入力済みテキストを誤削除した場合の復元方法

・Facebook 重複アカウントを整理しました。その後、アカウントの探し方や各種設定の変更の仕方、プライバシー設定・Messenger の使い方など、画面を操作しながら疑問や思いついたことなどを楽しくおしゃべりしながら解消していきました。そもそもの二重アカウントが作成されてしまった理由は、元のパスワードが不明になっていたところから起こったことのように。何かの拍子にログアウトしてしまうと、自分で改めてログインすることが出来ませんでした。

・事務局で事前に相談内容のヒアリングを実施して頂いていて、難しい質問については予め調べることができたので良かったです。相談の内容については、ログイン ID、PW を忘れてしまったという方が複数いらっしゃい、それを調べるだけで数時間かかってしまい、使い方や便利機能を教えたりすることができずに終わってしまうことがすごくもったいないと思います。KK<sup>2</sup>として、ID・PW の管理方法を提案してもいいのではないのでしょうか。

#### 【質問 2】2 日目：ミニ門松作りについて

・自身はミニ門松自体を作成していないが、お子さんの笑顔など楽しい場であったと思う。

・夏の活動にも参加してくれた男の子が、切断後の竹（捨てるほう）についたガムテープを一人で剥がしていたので、危なそうだったこともあり、傍でみながら会話した。自作の門松を嬉

しそうに見せてくれた。どこ竹活動の竹細工（虫づくり）を「いつかやってみたい！」と何度も言っていた。精巧な竹の虫は男児の心を驚掴みにしているようだった。

・初めは多くの人で賑わっていましたが、後半は来場者が少なかったように感じました。それでも、来られた方々は、どこ竹の方々の支援を受けつつ、思い思い個性あるミニ門松を笑顔で作っていました。また、今年の夏、居場所ハウスで竹水鉄砲を作って一緒に遊んだ男の子が来ていて、声をかけてみると当時のことを覚えてくれていました。嬉しかったです。この時期であればミニ門松だけでなく、クリスマスリースなども作ることにして、うまく宣伝するともっと多く子供たちが来てくれるかもと思いました。

・末崎町の三十苺子ども会のお友達6名とそのお父さん、お母さんが参加され、この行事を地域の子ども会に利用される、理想的な活動の在り方の一つを見ることができとても勉強になりました。今後は官報での告知に加え、子ども会にも告知すると参加者数が増えるのではないのでしょうか。

・初めて12月の活動に参加し、念願の門松作りを竹とんぼリーダーの指導のもとすることが出来ました。竹を切る際のちょっとした工夫（ガムテープで切断面をきれいにする）など、知恵の宝庫ですね。三十刈の子ども会の子たちがたくさん参加していて、なかなか楽しいイベントになったと思います。毎年繰り返し参加される方が増えていくといいなあと思いました。

・子供が多数参加されていて、にぎやかですごく良い雰囲気を実施されていたと思います。そのおかげもあり、様々なコミュニケーションが生まれ、色々な方と会話することができました。門松作りでは、どこたけのリーダーの方々も教え方が上手で、参加者も素晴らしい作品を作られていらっしゃいました。

#### 【質問 3】元気村ホームページについて

・村長さんがブログにスマホで投稿したいとの事で確認したが、メール形式で投稿したが、アップされない。しかし、コメントの入力はスマホ、PCの両方からできるため、恐らくスマホから投稿する際のメールアドレスが違うのではないかと説明。ご自宅パソコンから投稿してみてもどうかと進言。

・YES、NO ゲームは、物事には多面的な見方や多様な考え方があることを改めて実感でき、楽しく学ぶことができた。自らの意思で地域の自治会に入らない人もいれば、入りたくても地域の閉鎖的な文化により「自治会に入らせない」仕打ちを受けて苦しむ人もいる。前者には災害時に自治会が支援しなくても仕方ないが、全国的には後者も多く存在することは広く知って

いただきたいと思った。

・HP については触れる時間がありませんでした。感じたことは、そこにいる方々の知恵と行動で稼いでいる。それが生きる活力になっているように思い、いくつになっても健康で、稼ぐことが元気の源なのだと改めて認識できました。講話では、地域コミュニティやリーダーシップの大切さを再認識するとともに、「美しく生きる」ことについて考えるきっかけになりました。また1つ、再訪したい場所が増えました。

・PC とスマホで同一のブログを更新する場合の不具合に対する対応依頼があったため、元気村のホームページの更改、再構築要件、現状確認等を行うことができませんでした。

・残念ながら時間がなく、KK<sup>2</sup>の本命の議題には触れることが出来ませんでした。ただ、「やればできる」という感覚を強くお持ちのようなので、自主運営を目指すのであれば、一緒にホームページを作っていく、自分で理解して変更や問題解決ができるようなホームページ作成を目指すといいのではと、お話を聞いて強く感じました。始めるのは、いつだって遅くないという気持ちが強く伝わってきました。エンドユーザーの側に立った指導を望みます。

・別のブログへのログインができないという対応が急遽入り、ホームページの現状に関するヒアリングは十分に行えませんでした。ホームページの運用について、CMS なり、簡易 HP 作成サービスを利用するなりし、現地で完結できる仕組みを提案すべきかと思えます。

【質問 4】KK<sup>2</sup>のプログラムでご興味のあるものがありましたら教えてください

No	回答	人数	%
1	2018年 12月 10日開催【ライブ配信】第50回エキスパート・スタジオ	1	17
2	2019年 1月 26日開催 第20回 しごと力道場	1	17
3	2019年 2月 6日開催 第3回 タフな心の育て方 「自己承認」	4	67
4	興味はない	0	0
	合計	6	

【質問 5】全体の中で印象に残ったこと、ご意見・ご感想。

・もはや、東京のよそ者でなく、大船渡・陸前高田の住民とし

ての深いつながりが形成されていると思う。KK<sup>2</sup>の方針、共に考え、共に学び、共に担う社会の一員として嬉しい限り。

・何度か一緒にしてよく知る方も今回初めてお目にかかる方もいたが、より地域を知り、東京では学べない多くの物事を体感し、少しでも地域のお役に立ちたいという思いは共通であり、全てのアジェンダにおいて、真面目に楽しく活動できた。末崎町の皆様、ご一緒した皆様、東京でご支援くださっていた KK<sup>2</sup>の皆様、今回も大変お世話になり、ありがとうございました。また機会がございましたら宜しく願いいたします。

・美しく生きること。それがいざと言うときに生きる。普段の生活から意識していく必要性を学びました。どこにいても感謝され、気を使って下さっていると感じます。特に、居場所ハウスや PC 教室では、それを強く感じます。その分、準備などにも苦労されていると思うので、もっと気楽に迎え入れてくれて良いのにと感じました。

・元気村の防災教育プログラムはとても良くできていて、参加者に興味と関心を持たせて、飽きさせず、また自分事として取り組ませることができる優れたプログラムだと思いました。提供方法、価格設定、経費設定等、居場所ハウスの収益モデルの検討上も参考になるものと思いました。

・今回は、勝手知ったるメンバーでの行動だったので、ストレスのない終始いい感じでの活動になりました。そして、何よりも継続的に現地の皆さんと人間関係・信頼関係を構築していくことで、先につながる展望を開くことが出来ていくのではないかと迎えてくださったたまさきのみなさん、元気村のみなさんの笑顔から感じました。今後の運営がどのようなようになっていっても、作った絆を無駄にしないような行動をしていきたいと思っています。こんな機会をいただき感謝しています。

・長洞元気村でのコミュニティ活動の様々な課題について、わかりやすく、具体的な実際の事例でご説明いただき、組織を維持するポイント、難しさについて学ぶことができました。

また、IT の利用についても、上から目線で説明するだけでは、だれも利用してくれず、使うことのメリットや、決して難しいものではないことを丁寧に説明、コミュニケーションを取りながらでない浸透しないということでした。

地域コミュニティだけでなく、会社の組織においても学ぶべき点が大変多く今後に生かしていきたいと思いました。

以上